

# 膵のう胞

- ① 仮性のう胞：のう胞内腔をおおう上皮が無いものが仮性のう胞
  - ① 炎症性 急性膵炎の10%  
慢性膵炎の30% に合併  
膵炎で膵実質が自己消化されて水たまりのようにできたのう胞。
  - ② 外傷性
  - ③ 悪性に伴う二次性  
腫瘍が膵管をダムのようにせき止めたことによってできた液体のたまり。
  - ④ 特発性
- ② 真性のう胞：のう胞自体が腫瘍である水のたまり。
  - ① 粘液性のう胞腫瘍 MCN (Mucinous Cystic Neoplasm)  
卵巣様間質を伴う粘液産生性上皮細胞からなる腫瘍。  
ほとんどが40～50歳の中年女性の、膵体尾部に好発する  
夏みかん様球形で、のう胞全体を包む厚い被膜を有する。  
膵管との交通はない。悪性化するため原則手術。
  - ② 漿液性のう胞腫瘍 SCN (Serous Cystic Neoplasm)  
60～70歳の女性中高年女性に多く、多くは単発性、体尾部に好発。  
数mm～2cmまでの、比較的小さい蜂の巣状多房性のう胞  
通常膵管との交通はない。  
悪性化はまれ。経過観察でよい。
  - ③ 膵管内乳頭粘液性腫瘍 IPMN (Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm)  
膵のう胞の中で一番多い。
    - ① 主膵管型 MD-IPMN  
主膵管型の拡張  
膵管上皮が乳頭状（いくら様）となる。10mm以上でOPへ
    - ② 分岐型 BD-IPMN  
分岐膵管のブドウ状ののう胞拡張（拡張した膵管分岐が集合したもの）  
高齢男性に多い。m-PD拡張。Vater乳頭口開大。いくら状増生変化。  
膵頭部に多発することもある。（20～40%）  
隔壁があったり、壁在結節があったりする。
    - ③ 混合型  
①と②が共に存在するもの。

## IPMNからの発癌に注意



## まとめ

	SCN	MCN	IPMN
疫学	中年女性		高齢男性
好発部位	体尾部		頭部
外見	蜂の巣状	夏みかん状	ブドウの房状
膵管との交通	なし		あり
特徴	小のう胞の集簇	厚い被膜	m-PD拡張 Vater乳頭口開大 イクラ状増生変化
悪性化	まれ	あり	
治療	経過観察	OP.	主膵管型 OP. 分岐型 経過観察